

チッソ主体で、3成分と微量元素を供給する…

メガデルトン

# ネオスリー

[2液]

保証成分 (肥料登録: 生第71867号)		
チッソ	8.0%	鉄 0.12%
リン酸	3.0%	マンガン 0.3%
カリ	5.0%	銅 0.07%
マグネシウム	1.0%	モリブデン 0.05%

(カルテック製品は速効ですが、決して硝酸を含んでいません)

- 栄養生長を進めたい時に。
- 初期の生長促進に 刺激剤として。
- 肥料不足や、根傷みで吸肥不足の時の応急対策 (濃縮酵素液併用が良い)
- 生育の遅れ、疲労した草勢・樹勢の回復に。
- 葉菜の生長や結球、根菜の肥大、果実の肥大に。

## 葉面散布で速効的に 肥料成分を補おう

特に リン酸・苦土を 強めたいなら…

- 生殖生長期の安定した生育に。
- 後半の健康な体質と 品質の調整に。
- 光合成(同化)の不足、チッソ過多気味の時の生育促進・デンプン蓄積・糖度の向上 (Ca液状と交互散布が良い)
- 軟弱徒長、カビが多い時や 不安定な草勢の調整に。
- 果実の着色・成熟の促進に。

# ネオゲン

[1液]

保証成分 (肥料登録: 生第71866号)		
チッソ	4.0%	鉄 0.19%
リン酸	6.0%	マンガン 1.0%
カリ	2.0%	銅 0.07%
マグネシウム	3.0%	モリブデン 0.05%

【両液共通の使い方】

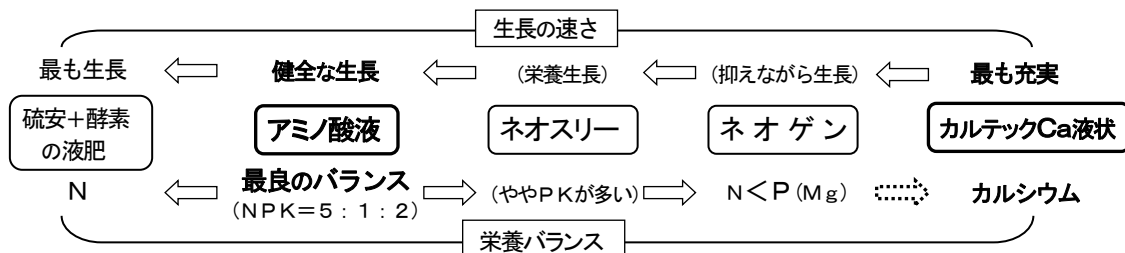
1リットル入り(1.2kg), 5リットル入り(6kg), 10リットル入り(12kg)

散布濃度	1000倍希釈を基準とし、厚い葉に強く効かせたい時は 800倍程に濃くする。
散布時刻	夕方か早朝。 [・高温期は 夕方が良い。日射の強い昼間の散布は避けること。 ・低温期、早朝に散布する場合は、日が昇った時 乾いていること。]
散布間隔	(1) 半月ごとの 定期散布が基本。(なるべく月の周期に合わせてと 効果が強くなります) (2) 特に早く、高い効果を求める場合や 育苗では、7日おき、ないし3日おきに 集中散布。 (3) 稲の育苗では、緑化時にネオゲン、田植え3日前にネオスリーを、500倍で散布するのが効果的。 (4) 異常気象(災害)・根の衰弱に対しては、2000倍程で 2~3日おきに 3回程 散布。

【混用の注意】

- ・弊社の濃縮酵素液、アミノ酸液への混用は、その500(~1000)倍液に 1000 倍で混合して下さい。
- ・他の一般的な液肥や散布剤・農薬と、混用の実例がありますが、あらかじめ試験してから使って下さい。(本液に展着剤が含まれていますから、別に展着剤を添加する必要はありません)
- ・本液は酸性です。(pH: 5.0程度) アルカリ性の散布剤や農薬、また石灰硫黄合剤と混合しないで下さい。

- ◎ まず土と根を調べ、濃縮酵素液を施して見て、本当に肥料成分が不足な場合だけ 両液で補って下さい。
- ◎ 生育状態と目的によって 両液(葉面散布剤)、および他の液剤を使い分け、交互に散布すると 効果的です。
- ◎ 健全な生長には、この液肥(葉面散布剤)の成分の他に、多量のカルシウムと 幾分かのチッソの吸収が必須です。



# おいしい米をつくろう

実肥と言われる出穂後の根から与える肥料や資材は、

食味と質を低下させます。

出穂後の肥料は \_\_\_\_\_

## メガデルトン ネオスリーまたはネオゲンで

産地によって同じ品種の米でも味が違うといわれています。それは気候や気象条件、

栽培管理の仕方にも有りますが、それ以上にミネラルのバランスが大きく左右します。

**メガデルトン ネオスリーや、ネオゲンは**

**より良い味と質に変化させます。**

### 【使い方】 出穂後、花が落ちてから

#### 1) もう少し肥料を利かせたいとき

メガデルトンネオスリーを 500 倍にして葉面散布。(チッソとカリが多め)

#### 2) 肥料が効きすぎて葉色が濃いとき、

倒伏の恐れのあるとき、イモチ病の心配のとき

ネオゲンを 500 倍にして葉面散布。(リン酸とマグネシウムが多め)

何れも農薬との混用は可能です。(但し、強アルカリの薬剤は混用しないでください)展着剤は不要。

---

出穂前等に薬剤を散布するときは、ネオゲンの 800~1000 倍液を混用すると素晴らしい効果が得られます。